

## 経済好調のフィリピン、新大統領の課題

### ◆大統領選挙でドゥテルテ氏が圧勝

フィリピンでは、2016年5月9日に大統領選挙が行われ、ロドリゴ・ドゥテルテ氏が選出された。選挙前には接戦が予想されていたが、結果はドゥテルテ氏が得票率39%と2位のロハス氏（得票率23%）に大きな差をつけて当選した。

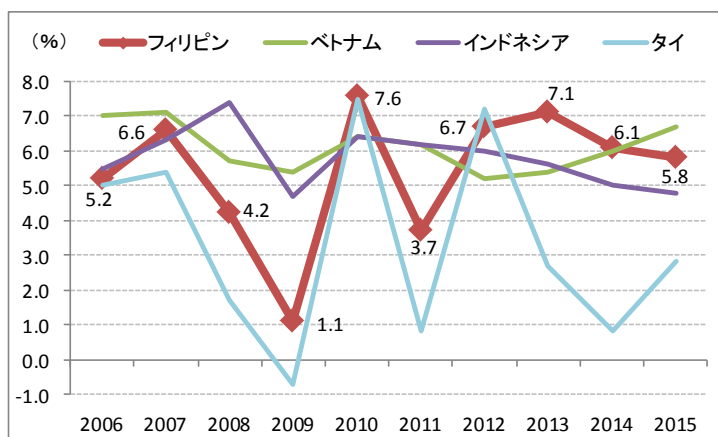
ドゥテルテ氏は、ミンダナオ島にあるフィリピン第3の都市ダバオの現市長で、過激な発言を繰り返すことで有名になった。強権的な手法でダバオ市の治安を改善した実績を持つが、経済政策の手腕は未知数だ。

### ◆現アキノ大統領の下で好調なフィリピン経済

10年6月に就任したアキノ大統領の下で、フィリピン経済は直近の4年間は6%前後の安定した高成長が続いている（図表1）。また、15年の一人当たり名目GDP額は2,858ドルと、自動車市場が立ち上がるといわれる3,000ドルに迫っている。

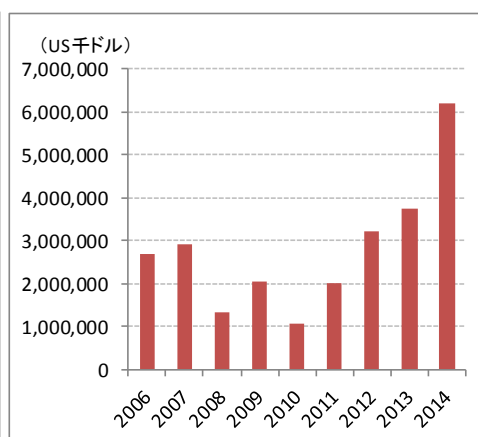
近年のフィリピン経済が好調な理由としては、アキノ大統領が汚職撲滅や政治的安定、財政健全化を進めたことで、海外からのフィリピンへの信頼感が改善し、対内投資の増加（図表2）や株価上昇に繋がった点大きい。

図表1: ASEAN主要国の実質GDP成長率の推移



(出所)IMF

図表2: 対内投資額の推移

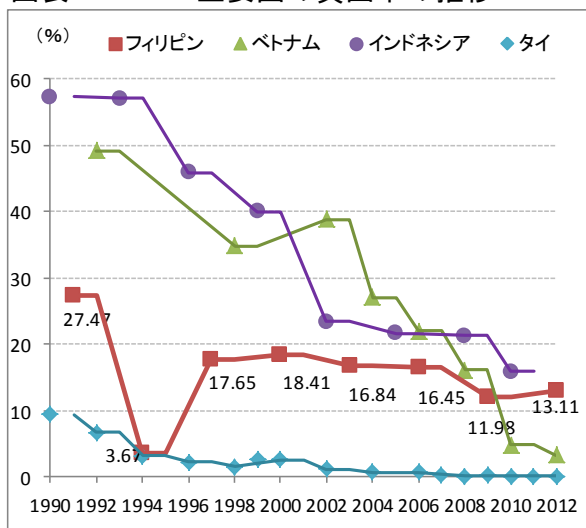


(出所)世界銀行

◆新大統領に求められる経済課題

フィリピン経済は、全体としては好調に推移している一方で、その果実が低所得者層にまで行き渡っていないという課題がある。貧困率の推移をASEAN主要国と比べると、フィリピンはベトナムやインドネシアなどに比べて貧困率の改善ペースが遅い（図表3）。また、所得階層別の全体に占める収入シェアをみても、フィリピンの中間所得層の収入シェアは44.48%と、ベトナム（47.78%）、インドネシア（48.72%）などに比べて小さく、中間層が育っていない（図表4）。ドゥテルテ氏が新大統領に選ばれた理由の一つには、経済成長に取り残された低・中所得者層の不満が「強い指導者」への支持に向かったといわれている。

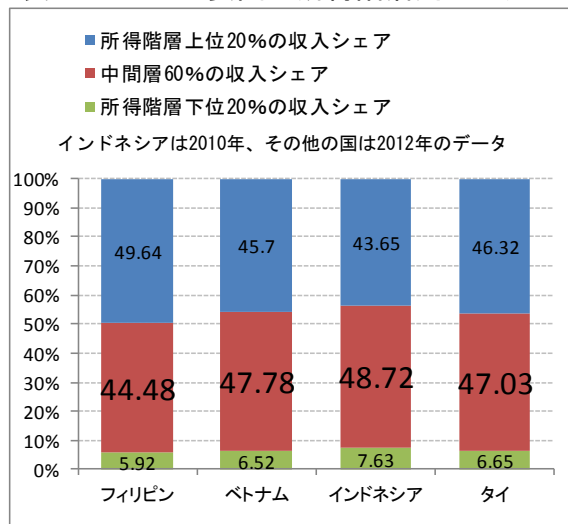
図表3: ASEAN主要国の貧困率の推移



(出所) 世界銀行

※貧困率: 一日当たり1.90ドル以下(購買力平価ベース)で生活する人の割合

図表4: ASEAN主要国の所得階層別の収入シェア



(出所) 世界銀行

ジェトロの「2015年度アジア・オセアニア進出日系企業実態調査」によると、フィリピンに進出している日系企業の売上高に占める輸出の比率は64.6%と、ベトナム（56.2%）やインドネシア（25.9%）、タイ（33.1%）と比べて高く、現状では輸出型企業の進出が多い。しかしフィリピンは人口が1億人超と多いことから、中間層が拡大していけば、フィリピンの内需を狙った企業の進出も増加し、フィリピン経済が一層活性化する可能性がある。

ドゥテルテ氏は、支持層である低・中所得者層向けの政策を重視するとみられるが、好調な経済を維持しながら所得格差を是正できるのか、6月30日に就任する新大統領の政策が注目される。

【今村弘史】